

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

本事業の上位目標は「ネパール中西部における妊産婦・新生児の健康改善」であり、医療サービスを提供する環境の改善、医療サービスを提供する人材の能力の向上、住民の健康に対する意識の改善、妊産婦・新生児の健康状態の改善を目指した。この上位目標の達成のため、本事業では以下の3つの分野で包括的活動を行なった。

- (1) お産センターの建設と医療備品の支援
- (2) 医療従事者へのキャパシティ向上研修・資機材提供
- (3) 家族計画の普及研修・啓発活動

(1) お産センターの建設と医療備品の支援

本事業でお産センターを建設したVDC（村落開発区域）は、事業前には出産に対応できる施設がない、もしくは地域住民に基本的な医療サービスを提供するSHP（簡易保健所）に最小限の医療器具を置いてあるだけの状態であった。

本事業により分娩室と診察室を備えたお産センターが建設され、政府が定める医療機器も設置された。また各お産センターにソーラーパネルを設置し、ネパール政府が定める「24時間出産に対応できる施設」という基準を満たし、夜間の出産に対応できる体制を整えることができた。

(2) 医療従事者へのキャパシティ向上研修・資機材提供

ジャジャルコット郡のSHPの中には安全な出産を行なうために不可欠となる出産介助師がいない場合もあり、出産介助師が立ち会っての施設出産が行われていないVDCも存在した。

本事業にて、お産センターを建設した6つのVDCと、その近隣の5つのVDCで働く11名の出産介助師に出産介助研修を行なうとともに、近隣の5つのVDCには出産介助研修で身につけた技術を活かせるよう、出産介助に必要とされる基本的な医療器具の提供も行なった。この結果、彼らの所属する11のVDCでは、研修後の2014年10月から2015年4月にかけて、241名の妊婦が出産介助師の所属する施設で出産することができた。この研修により、受講者の出産介助に関する技能は各段に改善され、これにより彼らが所属するVDCの出産サービス提供状況も改善された。

更に本事業ではジャジャルコット郡の6名の医療従事者にインプラント（避妊具）研修を行ない、インプラントの着脱処理ができるようになった。

(3) 家族計画の普及研修・啓発活動

ジャジャルコット郡の全30VDCを対象とし、家族計画の普及研修・啓発活動を行なった。各医療施設に対する研修のほか、各VDCに原則として9名存在する女性ボランティアが母親グループを対象とした啓発活動を行ない、家族計画の方法を広めた。また、2014年からネパール保健・人口省が9月18日を「家族計画デー」と定めたため、この日に合わせてイベントを開催したほか、ラジオ放送を通じて多くの地域住民に家族計画の大切さを伝えた。

(2) 事業内容

(イ) -① お産センターの建設 (6 棟)

ジャジャルコット郡の Punma、Salma、Archhani、Jhapra、Suwanuli、Dhime の 6 VDC にお産センターを建設した。

(イ) -② お産センターに必要な機材・設備の提供

建設したお産センターに対し、ネパール保健省が指定する備品のうち、村落部で使用頻度が高く、村落部の人材によりメンテナンスが可能な簡易な作りのベビーウォーマーのほか、分娩ベッド、滅菌器、薬品トローリー、ストレッチャーなどを提供した。また、夜間の出産にも対応できるようにするほか、電力を要する医療資機材を使えるようにするため、950 ワットのソーラーパネルとバッテリーを提供した。

この 6 棟のお産センターのほか、近隣の 5 VDC (Jungatapachaur、Laha、Kagenkot、Lamidada、Dasela) の SHP に対し出産介助に必要な最低限の備品を提供した。これらの SHP の出産介助者は本事業の出産介助研修を受講しており、彼らの出産介助技術が向上した一方でその技術を生かすための備品が不足していたため、技能に見合った備品が必要と判断し、この支援を行なった。

(イ) -③ 郡病院へのワクチン保存用のソーラーパネルの提供

ジャジャルコット郡は郡内に水力発電施設があるが、季節により発電に利用できる水量が大きく変動するため電力供給は安定しておらず、年間を通して停電が多い。郡病院も郡の水力発電に依存しており、夜間の急患やお産に対応する際に電気がなく不都合を感じる場合もあった。郡病院が 24 時間、診察や出産に対応できるよう、2100 ワットのソーラーパネルを導入した。また、冷蔵保存が求められるワクチンや薬を安定した状態で保存することができるよう、コールドチェーンルーム (冷蔵室) にも 1680 ワットのソーラーシステムを導入した。

(ロ) - ① 郡リプロダクティブヘルスケア委員会への機能強化

2014 年 9 月 14 日から 15 日にかけて、郡リプロダクティブヘルスケア委員会のメンバー 22 名を対象に機能強化研修を行なった。研修では、医療施設の自主的な維持管理に関する意識づけ、それらの活動において受講者がリーダーシップを発揮できるようにするトレーニングなどを行なった。

研修後、郡保健事務所は出産介助者が不在だった Punma、Salma、Archhani、Jhapra、Suwanuli VDC に出産介助ができる人材を派遣することを決定した。2014 年 7 月までにこれら 5 VDC への出産介助師の派遣を終え、この 5 名は本事業による出産介助研修 (ハ-②参照) を受講して出産介助に関する技能を高めた。

(ロ) - ② VDC レベル保健医療施設マネジメント委員会への研修

お産センターを建設した VDC の保健医療施設マネジメント委員会のメンバーや VDC 職員など 79 名に対し、上記 2.1 と同様の機能強化研修を行なった。

研修の結果、各保健医療施設は 39,000~90,000 ルピーの予算を VDC

から得たほか、出産介助師の追加やコミュニティトイレの設置、予防接種キャンペーンや水衛生キャンペーンの開催、女性地域ボランティアへのキャパシティ向上研修の開催などに着手するようになり、委員会の活性化とそれに伴う地域の保健衛生環境の改善につながった。

(ハ) - ① 医療従事者へのインプラント研修

ジャジャルコット郡の6名の医療従事者に対し、バンケ郡ネパールガンジの国立トレーニングセンターにて2014年7月20日から27日までの8日間、インプラント（避妊具）研修を行ない、6名の受講者全員がインプラントの装・脱着ができるようになった。また、2015年1月14日にレビュー研修を行ない、研修後の課題や対応策、今後の目標について話し合った。

(ハ) - ② 出産介助者（SBA）への出産介助研修

カイラリ郡ダンガリ市国立病院にて2014年7月24日から9月29日までの60日間、出産介助研修を行なった。お産センターを建設したVDCで働く出産介助師を含む11名が受講し、全員が研修の全課程を修了した。また、2015年1月15日にレビュー研修を行ない、研修後の課題や対応策、今後の目標について話し合った。

(二) 家族計画の普及研修・啓発活動

ジャジャルコット郡の避妊普及率を向上させるため、家族計画の普及研修を行なった。郡全体の避妊普及率が45%に達することを目標とし、まずはこの目標を達成するための郡レベルでの家族計画の詳細計画の作成を26名の郡保健事務所スタッフとともに行なった。その後、郡リプロダクティブヘルス委員会に活動内容を発表し、目標達成のための支援活動や啓発を積極的に行うよう働きかけた。さらに、郡内の全てのVDCを対象とし、家族計画の普及研修を計4回実施した。106名のSHPスタッフがこの研修に参加し、各VDCのニーズに合ったVDCレベルの家族計画の詳細計画を作成した。この詳細計画を元に、女性ボランティアが各村で月1回開催されている母親グループの会合において家族計画の啓発活動を行なった。

(ホ) マスキャンペーン

ネパール保健・人口省定めた家族計画デーに合わせ、家族計画啓発イベントをジャジャルコット郡庁所在地のカランガで開催した。学生（9年生と10年生）や若い母親たちが参加し、家族計画の重要性や方法について学んだ。

このほか、本事業期間中、5つのテーマ（施設出産の重要性、母子・新生児の健康、産前健診の重要性、産後健診の重要性、家族計画）に関するラジオ番組を計480回放送した。

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>成果 1 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業で建設したお産センター6 棟はすべて運用されている。 ・ 各お産センターにはネパール保健・人口省の家族健康局が定めたお産センターに設置されるべき備品のうち、ジャジャルコットの出産介助師が使用できる基本的な備品を整えた。 <p>成果 2 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出産介助研修後、研修を受講した出産介助師により 241 件の施設出産が行われた。出産介助師は研修を受講したことにより逆子対応や縫合などもできるようになった。 ・ お産センターを建設した VDC では保健医療施設マネジメント委員会が積極的に VDC 内の予算の配分を求めようになり、各保健医療施設が地域のニーズに合った活動を行なうことができるようになった。 <p>成果 3 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インプラント研修により、ジャジャルコット郡内でインプラントの装・脱着を行なえる医療従事者のいる医療施設が 9 ヶ所から 15 ヶ所に増えた。 ・ インプラント研修を修了した医療従事者は、2015 年 4 月時点で計 179 名の女性にインプラントの装着処置を行なっている。研修ではカウンセリング方法も学び、避妊を希望する女性の体調やニーズに合った避妊方法を提供できるようになった。 <p>成果 4 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性保健ボランティアを通して行なった家族計画の啓発により、家族計画への関心が高まった。 ・ お産センターの建設や妊産婦検診を促すラジオ放送により、お産センターを訪問する女性が増えた。
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業では、お産センターの建設とコミュニティレベルでの母子保健に関わる人材の育成、さらに医療施設の管理運営に関わる人材の育成を行ない、ハード面とソフト面の充実に加え、両者を管理する委員会の機能強化にも着目した支援を行なった。これにより、事業成果を長期にわたって持続させることが可能となる。</p> <p>お産センターはネパール政府が定める設計を元に建設しており、各お産センターに提供した備品もネパール保健・人口省家族健康局のガイドラインに沿って決定した。提供した備品はすべて郡保健事務所の備品目録に登録しており、郡保健事務所が管理・使用する。</p> <p>出産介助研修を受けた出産介助師は約束書 (commitment letter) を各 VDC に提出している。この約束書において、各出産介助師は VDC に雇用され、今後も継続して各お産センターで出産介助を行なうことを約束している。</p> <p>保健医療施設マネジメント委員会は保健医療施設の責任者、及び</p>

	<p>VDC の住民と有識者で構成されており、お産センターやそこに設置された備品に加え、お産センターで働く医療従事者も含めて包括的に運営・管理する責任を負っている。この委員会に対する研修を通して委員会の職務を見直し、意識変革を行なったことで、自分たちの VDC の問題を自分たちで解決しなければならないという意識を持たせることができた。その結果、コミュニティトイレを建設したり、新たに出産介助師を雇用したりといった活動が見られるようになった。積極的な活動ができる体制が整い、今後、運営管理体制が向上することが期待される。</p>
--	--